



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社アーケム横浜R&Dセンター新築工事	階数	地上2階建て
建設地	神奈川県横浜市戸塚区上矢部町585-1, 585-3, 585-5, 585-12, 585-13, 584, 606	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	140 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年12月18日
敷地面積	2,489 m ²	作成者	三ツ木 達哉
建築面積	1,256 m ²	確認日	2025年12月18日
延床面積	2,443 m ²	確認者	三ツ木 達哉



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
将来の更新性に配慮したゆとりある計画とした。また、敷地内には緑地を設け、周辺環境に配慮した。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
事務所の床・天井に吸音材を使用した。事務室の設計照度を500lx以上となるよう照度設定した。	平均階高=3.95m、事務室の天井高=2.7m、壁長さ比率: 0.13とする事で空間のゆとりを確保する共に将来への更新性に配慮した。	敷地周囲に緑地を配置した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外壁断熱材にはウレタンフォーム、屋根面の断熱材にはポリスチレンフォームを採用し、断熱性能を高めるように計画した。	内装の下地にはLGSを採用し、部材の再利用に配慮した。自動水栓に加え、擬音装置付きウォシュレットを採用した。	特になし。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅> 受付日 2025年12月22日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称)株式会社アーケム横浜R & Dセンター新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 2

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 31 %削減



基準一次エネルギー(100%)

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

外壁断熱材にはウレタンフォーム、屋根面の断熱材にはポリスチレンフォームを採用し、断熱性能を高めるように計画した。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

事務室設計照度700lx > 500lx とした。

館内全体禁煙とした。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

事務室の天井高を2.7mとした。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

敷地内に低木・中木等の外構緑化を設けた。

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

空調・給水配管については主な用途の上位3種にB以上を使用し、Eは不使用とした。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

敷地内に低木・中木等の外構緑化を設けた。

敷地境界際フェンスはメッシュフェンスを採用し、見通しに配慮した。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)株式会社アーケム横浜R&Dセンター新築工事

バージョン

CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
		Q 建築物の環境品質				-	-	-
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	2.8
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-	-
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	-
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-	-
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	-
1.3 吸音				4.0	0.20	3.0	-	-
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	-
1 室温	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0	-	-
2 外皮性能	健康・安心		⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	1.0	0.20	3.0	-	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.30	3.0	-	-
3 光・視環境				2.4	0.25	-	-	2.4
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-	-
1 昼光率	快適・働きやすさ		⑩光環境	1.0	0.60	3.0	-	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.40	3.0	-	-
3.2 グレア対策				2.0	0.30	-	-	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	2.0	1.00	3.0	-	-
3.3 照度	快適・働きやすさ		⑩光環境	4.0	0.15	3.0	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.25	3.0	-	-
4 空気質環境				3.2	0.25	-	-	3.2
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	1.00	3.0	-	-
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	-
1 換気量	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.33	3.0	-	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.33	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.33	3.0	-	-
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.50	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9
1 機能性				2.5	0.40	-	-	2.5
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ		⑫機能性	1.0	0.33	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	3.0	-	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性				2.3	0.30	-	-	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.33	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		⑫機能性	2.0	0.33	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	1.0	0.33	1.0	-	-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		⑫機能性	2.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.2	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防災		⑮信頼性	1.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防災		⑮信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防災		⑮信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	-
1 階高のゆとり				5.0	0.60	3.0	-	-
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	-	-

3.3	設備の更新性		3.0	0.40		-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	-
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30		-	1.7
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	10生物環境の保全と創出	1.0	0.30		1.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	19まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40		2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	20地域性への配慮	2.0	0.50		-
3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	14敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50		-
LR	建築物の環境負荷低減性						3.1
LR1	エネルギー						3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	1建物熱負荷抑制	5.0	0.20		5.0
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	2自然エネルギー利用	3.0	0.10		3.0
3	設備システムの高効率化			2.5	0.50		2.5
	集合住宅以外への評価	省エネルギー性能	3設備システムの高効率化	2.5	1.00		-
	集合住宅への評価	省エネルギー性能	3設備システムの高効率化				-
4	効率的運用			3.0	0.20		3.0
	集合住宅以外への評価			3.0	1.00		-
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	0.50		-
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	0.50		-
	集合住宅への評価						-
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	-		-
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	-		-
LR2	資源・マテリアル						2.9
1	水資源保護			3.4	0.20		3.4
1.1	節水			4.0	0.40		-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-
2	非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60		3.0
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.10		-
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-
2.5	持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.20		-
3	汚染物質含有材料の使用回避			2.5	0.20		2.5
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-
3.2	フロン・ハロンの回避			2.3	0.70		-
1	消火剤			2.0	0.33		-
2	発泡剤(断熱材等)			2.0	0.33		-
3	冷媒			3.0	0.33		-
LR3	敷地外環境						3.2
1	地球温暖化への配慮			3.8	0.33		3.8
2	地域環境への配慮			2.8	0.33		2.8
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25		-
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-
2.3	地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25		-
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-
3	交通負荷抑制			2.0	0.25		-
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25		-
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33		3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-
1	騒音			3.0	0.33		-
2	振動			3.0	0.33		-
3	悪臭			3.0	0.33		-
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-
1	風害の抑制			3.0	0.70		-
2	砂塵の抑制			1.0	-		-
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30		-
3.3	光害の抑制			3.7	0.20		-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70		-
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-
上記以外の重点項目							
<事務用途>							
知的生産性向上への取組							
	快適・働きやすさ		13知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-
<住宅用途>							
健康と安心							
1	化学汚染物質の対策	健康・安心	6健康対策	-	-	-	-
2	適切な換気計画	健康・安心	6健康対策	-	-	-	-
3	結露・カビ対策	健康・安心	6健康対策	-	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	7防犯対策	-	-	-	-